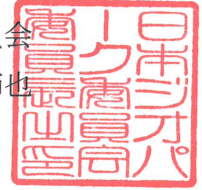


2026年2月27日

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会  
会長 川野 文敏 様

日本ジオパーク委員会  
委員長 中田 節也



### 第56回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2026年1月30日に行われた第56回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

#### 【総評】

本ジオパークでは、継続したジオパーク教育やガイド活動を通じて、住民の地域に対する愛着が増している。また、重要文化的景観の選定や化石観察ガイドラインの策定、地質物品販売の縮小に向けた事業者との話し合いが進み、地質遺産や文化遺産の保護保全が進んだ。前回の指摘事項に対しても、資料館の名称に「ジオパークミュージアム」を冠したことや、歓迎看板などの設置による可視性の向上、地元事業者とのコミュニケーションの改善、学術研究に対する助成金制度の創設の成果が見られる。

一方で、組織体制については、本ジオパーク特有の「班制度」が機能していないことから、早急な見直しが求められる。また、拠点施設の役割や位置付けを明確にすること、ステークホルダーとの連携を深め、パートナーシップを強化すること、地質物品販売への継続した対応と事業者へのサポートなどを改善することで、さらなる発展が期待できる。

#### 【優れている点】

- ・学校教育では、出前授業や姫島小学校との交流事業、ジオ・ジュニアリーダークラブの開催など、継続した教育活動が展開されており、若年層の地域アイデンティティの形成に寄与している。
- ・本ジオパークガイド会では、毎月ガイド茶会が開催され、活発な議論が展開されている。自主勉強会や保全活動も行われており、ジオパークにおける活動の鍵となる団体として、幅広い活躍が認められる。
- ・重要文化的景観として「緒方川と緒方盆地の農業景観」が選定を受けたことにより、ジオパークと文化財の一体的な景観保全が進められた。ジオパークの運営と文化財行政の連携が良くとれた好例である。

- ・化石観察ガイドラインを策定し、教育現場での活用が進んでおり、児童・生徒に対して、化石の重要性や保護の必要性を伝えることに成功している。このことが地質遺産の重要性を共有することに貢献している。
- ・地質物品販売をしている事業者と地質物品販売の縮小に向けた対話を始めたことで、新たな連携の芽が出てきており、今後の展開に期待できる。
- ・おおいた姫島ジオパークや大分県と密に連携し、他地域との交流を通じて、地域の枠をこえたジオパーク活動が展開されている。

### 【今後の課題・改善すべき点】

#### I 緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね1年以内）

1. 組織体制の見直し：現在の「班制度」を見直し、ガイド会が行っている「ジオ茶会」のように、活発な議論や活動が展開される部会やワーキンググループの設置を検討してほしい。

#### II できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

2. 関連施設やステークホルダーとのパートナーシップ強化：関連施設とジオパークの役割や関係をはっきりさせ、地域で活動する関係者との連携を深めることで、パートナーシップをより強化してほしい。

#### III 中長期的に解決すべき事項

3. 次世代専門員の雇用確保に向けた検討の継続：次世代の専門員の雇用確保に向け、引き続き、関係者間で検討してほしい。
4. 地質物品販売への継続した対応と事業者へのサポート：事業者との継続的な対話やワーキンググループでの議論を通じて、売り場の縮小や代替商品の検討などを進め、販売削減につなげてほしい。また、「なぜ地質物品販売には問題があるのか」というジオパークの考え方を一般社会や関係職員に共有することも求められる。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上